

大分県	予定生理より2週間以上月経発来が遅れた場合、必ずHCG定性検査をするように指導している。同意書を頂いています。
大分県	より確実な避妊を行うことを指導する。子宮がん検診の必要性や、性感染症に対する知識、検査の必要性を教育する場になるように指導する
大分県	嘔吐と確実性
宮崎県	3週間たっても、月経がないときは必ず再来のこと
宮崎県	避妊を失敗する可能性についての十分な説明
宮崎県	副作用の説明。無月経が続く時は、妊娠のチェックを
宮崎県	副作用。内服後の出血の有無について
宮崎県	100%ではないこと。できるだけBBTをつけさせて、その後を観察
宮崎県	副作用。効果の程度。
宮崎県	確実な避妊法ではないこと。月経遅れた場合の検査
宮崎県	性交した時間。既往歴
宮崎県	充分説明すること
鹿児島県	OC処方時に類似。加えて、今後の避妊や性生活等の本人の理解度や指導
鹿児島県	100%ではないこと。STDの問題。安易にこの方法を乱用しないよう
鹿児島県	すでに妊娠していないか
鹿児島県	副作用など
鹿児島県	避妊、性感染症の正しい知識を伝えること
鹿児島県	100%でないことを説明
沖縄県	嘔吐防止
沖縄県	避妊法としては一番悪い方法で、失敗率も悪い。低用量ピルを飲みましょう。
沖縄県	今後の避妊指導
沖縄県	避妊率は決して100%でないと説明、了解得る。その後の排卵日のズレが生じ、再度避妊失敗する方がいるので、その後のOC又はIUDを勧めている。
沖縄県	副作用、避妊効果

厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)

第4回男女の生活と意識に関する調査

- 性行動と避妊に関する意識と実態について -

菅 睦雄 (リプロ・ヘルス情報センター)

北村邦夫 (社団法人 日本家族計画協会)

平成14年度より厚生労働省の厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業として「全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」の一環として「男女の生活と意識に関するアンケート調査」を行ってきた。今回の平成20年の調査は4回目となるが、各年次調査内容については少々異なっているものの基本的な項目は殆ど同じであり、本調査報告書は、過去の調査と比較検討することも可能と考えている。

本調査の目的は、20歳未満の人工妊娠中絶と性感染症が過去に例をみないスピードで増加している現状と、性に関する事柄は男と女の生涯のテーマともいえ、これらの課題に立ち向かうためには、新たな視点での取り組みが必要とされてきている。その課題の現状と問題点をさぐるために、「男女の生活と意識に関する調査」を行ってきた。

今回の調査にあたって、以前と同様に個人のプライバシーに十分に留意しつつ、層化二段階無作為抽出法という調査手法を用いた。まず、全国都道府県の市区町村を単位として11地区に分類し、さらに各地区における都市規模によって大都市、人口10万人以上の都市、人口10万人未満の都市、町村という四つに層別化し、その上で、区・都市規模別各層における推計母集団数の大きさにより、平成20年9月1日現在満16～49歳の男女個人3,000の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数が13～23になるように調査地点数を決めた。次に、抽出の1段階目として、各層内で国勢調査区より割り当てられた地点数を無作為に抽出し、2段階目として各地点を管轄する自治体の役場で住民基本台帳から対象者個人を抽出した。

平成20年9月11日(木)より9月28日(日)に調査員が訪問し、その結果、長期不在、転居、住居不明によって調査票を手渡すことができなかったものを除く2,712人に調査表を配布した。このうち得られた有効回答数が1,468名(男性647名、女性821名)、回収率54.1%であり、この集計結果を解析に供した。今回の得られたアンケート調査の内容から、本報告書の「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」に関する項目を主に解析し、過去に行われた調査を踏まえながらその実態と変容を明らかにすべく以下に報告する。

I 章. 調査対象の背景

1. 男女間の年齢分布

得られた有効回答者 1,468 名の内訳は男性 647 名、年齢は 16 歳から 49 歳で平均年齢 34.5 ± 8.9 歳、女性 821 名で男性同様に 16 歳から 49 歳で平均年齢 34.8 ± 9.0 歳であり、男性 44.1% に対し女性 55.9% の比であった。男女間において年齢に有意差は認められなかった。

尚、2006 年の第 3 回調査では、男性 636 名 34.3 ± 9.3 歳、女性 773 名 34.2 ± 9.3 歳であり、ほぼ同じ年齢背景であった。

今回対象の 5 歳階級別の年齢分布をみると以下の如くで、各年代間において男女比の違いは認めなかった。

表 1. 調査対象の 5 歳階級別年齢分布：() 内は%表示。

	20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45 歳以上	総計
男性	40(6.2)	68(10.5)	84(13.0)	110(17.0)	131(20.2)	122(18.9)	92(14.2)	647(100)
女性	49(6.0)	88(10.7)	100(12.2)	138(16.8)	143(17.4)	162(19.7)	141(17.2)	821(100)
総計	89(6.1)	156(10.6)	184(12.5)	248(16.9)	274(18.7)	284(19.3)	233(15.9)	1,468(100)

この年齢分布を性行動の意識と実態について検討するにあたり、5 歳階級別でみると 8 区分となり、20% 以下で細かくなり過ぎ判断が歪められるリスクを考慮して、25 歳未満を性成熟期前半群、25-34 歳を性成熟期群、35-44 歳を性成熟期後半群、45 歳以上群（更年期群）と 4 区分にして検討することにした。下記の如くの世代分布として捉えても男女間の比も妥当なところではないかと考えた。

表 2. 世代別男女の構成

	25 歳未満	25-34 歳	35-44 歳	45 歳以上	総計
男性	108(16.7)	194(30.0)	253(39.1)	92(14.2)	647(100)
女性	147(19.0)	233(30.1)	254(32.9)	141(17.2)	821(100)
総計	245(16.7)	432(29.4)	558(38.0)	233(15.9)	1,468(100)

表 2-2. 第 3 回調査の世代別男女の構成

	25 歳未満	25-34 歳	35-44 歳	45 歳以上	総計
男性	115(18.1)	190(29.2)	228(35.8)	103(16.2)	636(100)

女性	147(19.0)	233(30.1)	254(32.9)	139(18.0)	773(100)
総計	262(18.6)	423(30.0)	482(34.2)	242(17.2)	1,409(100)

また、小区分において母集団が少なくなる場合には、35歳未満と35歳以上で比較することも試みることにした。

2. 兄弟姉妹

対象者の兄弟姉妹の有無については、表3に示すごとく「いない」という一人っ子は男性で52名(8.0%)、女性74名(9.0%)であり、男女間ではほぼ同じ値であった。男女共に兄弟姉妹を有しているものが90%を越えており、その平均人数は男性で兄弟姉妹ありは590名で平均 1.6 ± 0.9 (1-10)人であり、第3回調査では588名の平均 1.7 ± 0.9 (1-7)人に比べると2年間で減少し有意差($p < 0.05$)を認めた。女性の兄弟姉妹ありが739名で平均 1.6 ± 0.8 (1-6)人であり、同様に第3回調査の平均をみると 1.8 ± 1.1 (n=706)人に比べると少なく有意差($p < 0.001$)を認めたが、今回の男女間には有意差を認めなかった。

兄弟姉妹の数についてみると男女とも1人が半数を占めており、2人は31%、3人以上9%と男女間において殆ど一致していた。すなわち、今回も「独りっ子」世代は10%を下回っていた。

表3. 男女別世代別兄弟姉妹の構成

性別	世代	独りっ子	1人	2人	3人以上	無回答	総計
男性	16-24歳	8(7.4)	53(49.1)	39(36.1)	6(5.6)	2(1.9)	108(100)
	25-34歳	12(6.2)	99(51.0)	65(33.5)	17(8.8)	1(0.5)	194(100)
	35-44歳	23(9.1)	128(50.6)	71(28.1)	29(11.5)	2(0.8)	253(100)
	45歳以上	9(9.8)	45(48.9)	29(31.5)	9(9.8)	0(0.0)	92(100)
男性計		52(8.0)	325(50.2)	204(31.5)	61(9.4)	5(0.8)	647(100)
女性	16-24歳	14(10.2)	62(45.3)	39(28.5)	21(15.3)	1(0.7)	137(100)
	25-34歳	17(7.1)	123(51.7)	79(33.2)	16(6.7)	3(1.3)	238(100)
	35-44歳	29(9.5)	152(49.8)	99(32.5)	22(7.2)	3(1.0)	305(100)
	45歳以上	14(9.9)	67(47.5)	40(28.4)	17(12.1)	3(2.1)	141(100)
女性計		74(9.0)	404(49.2)	257(31.3)	76(9.3)	10(1.2)	821(100)
総計		126(8.6)	729(49.7)	461(31.4)	137(9.3)	15(1.0)	1468(100)

3. 職業

調査対象者の職業は、男性では70.2%が常勤職についており、非常勤職は僅か4.6%であった。自営業は9.4%であり、学生は8.3%であるも25歳未満で54名中52名(96.3%)と殆どで、25歳以上では僅か2名であった。世代区分でみると常勤職は25-34歳群で80.4%

と最も高く、35-44 歳群 79.4%、45 歳以上 77.2%とわずかに減少し、自営業が 45 歳以上群 15.2%と高くなっていた。

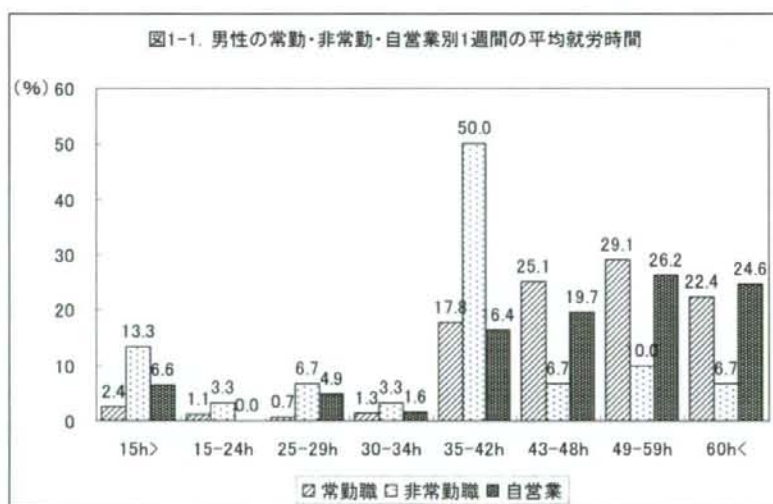
第 3 回調査と比較すると男性では無職が前回調査の 2.8%に比べ今回は 4.5%と有意差は認められないものの上昇しており、これを 35 歳以上で括ってみると今回調査では 345 名中 19 名 (5.5%) となり、前回調査の 331 名中 5 名 (1.5%) に比べると高値で有意差 ($p < 0.01$) を認めた。

表 3-1. 調査対象の世代別職業分布 (男性)

	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
男性	25 歳未満	26(24.1)	17(15.7)	5(4.6)	52(48.1)		2(1.9)	6(5.6)	108
	25-34 歳	156(80.4)	10(5.2)	14(7.2)	2(1.0)		8(4.1)	4(2.1)	194
	35-44 歳	201(79.4)	2(0.8)	28(11.1)			15(5.9)	7(2.8)	253
	45 歳以上	71(77.2)	1(1.1)	14(15.2)			4(4.3)	2(2.2)	92
男性計		454(70.2)	30(4.6)	61(9.4)	54(8.3)		29(4.5)	19(2.9)	647

1 週間の平均就労時間について常勤職・非常勤職・自営業の 3 種の職業に対してみると常

勤職に就くものは 49-59 時間が 29.1%と最も多く次いで 43-48 時間の 25.1%、60 時間以上が 22.4%となっており、週休 2 日制で 1 日 8 時間労働と考えるなら 43 時間以上が 76.7%となり残業時間を明らかに費やしていることといえる。一方、非常勤職に就くものは 35-42 時間



が 50.0%と半数で 43 時間以上は 23.3%のみであった。

自営業の場合は 49-59 時間が 26.2%と常勤と同様にピークを示し、次いで 60 時間以上 24.6%、43-48 時間が 19.7%となっていた。43 時間以上の割合をみると 70.5%と常勤職よりやや下回っていた。

女性は常勤職が 30.8%、非常勤職 28.5%、主婦 20.8%、学生 8.8%であり、学生も男性同様 25 歳未満群が 72 名中 70 名 (97.2%) と殆どであった。世代区分でみると 25 歳未満群は学生に続いて常勤職が 25.5%と続いていたが、25-34 歳では常勤職が 38.7%と高くなり、非常勤職と主婦が 25.6%と続いていた。35-44 歳群では常勤職が 26.9%に減少し、主

婦が 27.2%と上昇しており、45 歳以上になると常勤職 31.2%、非常勤 33.3%と上昇し、主婦は 16.7%減少していた。

女性の専業主婦についてみると前回調査では 773 名中 178 名 (23.0%) であり今回の 20.8%に比べ有意差はみられないものの低値となっていた。35 歳以上で括ると前回の 29.0%に比べ今回は 23.8%とより低値であったが、45 歳以上だけでみると前回の 103 名中 39 名 (28.1%) に対し今回は 16.7%であり有意差(p<0.05)を認めた。

表 3-2. 調査対象の世代別職業分布 (女性)

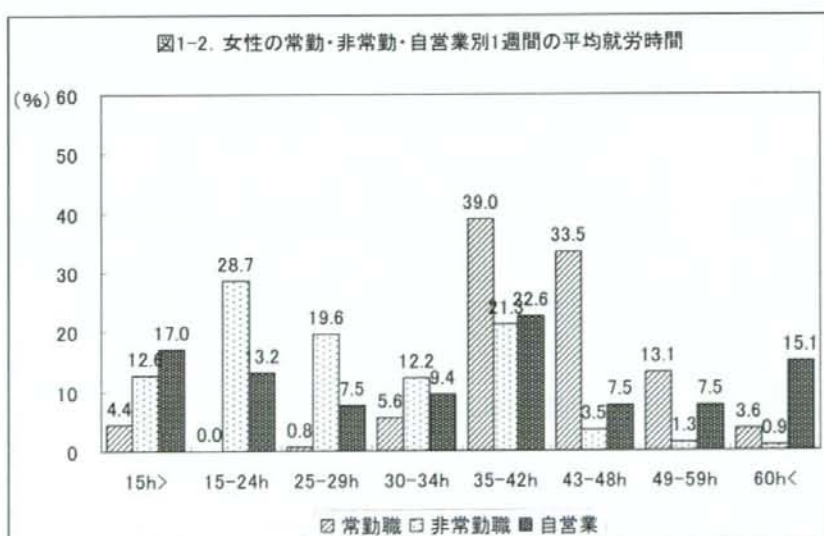
	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
女性	25 歳未満	35(25.5)	19(13.9)	1(0.7)	70(51.1)	4(2.9)	6(4.4)	2(1.5)	137
	25-34 歳	92(38.7)	61(25.6)	11(4.6)	1(0.4)	61(25.6)	9(3.8)	3(1.3)	238
	35-44 歳	82(26.9)	107(35.1)	23(7.5)	1(0.3)	83(27.2)	4(1.3)	5(1.6)	305
	45 歳以上	44(31.2)	47(33.3)	20(14.2)		23(16.3)	3(2.1)	4(2.8)	141
女性計		253(30.8)	234(28.5)	55(6.7)	72(8.8)	171(20.8)	22(2.7)	14(1.7)	821
総計		707(48.2)	264(18.0)	116(7.9)	126(8.6)	171(11.6)	51(3.5)	33(2.2)	1,468

同じように女性の常勤職・非常勤職・自営業の 3 種の職業に対して 1 週間の平均就労時間についてみると常勤職に就くものは 35-42 時間が最も高値を示し 39.0%であり、次いで 43-48 時間の 33.5%、49-59 時間は 13.1%であった。43 時間以上でみると 50.2%と半数が残業を取っていた。

非常勤職では 15-24 時間が 28.7%とピークを示し、次いで 35-42 時間の 21.3%、25-29 時間 19.6%となっていた。43 時間以上はわずか 5.7%であった。

自営業でみるとピークは 35-42 時間で 22.6%、次いで

15 時間未満が 17.0%となり、43 時間以上では 30.2%であり、主人のサポート的な役割も持っているように窺われた。



4. 婚姻関係

未婚男性は272名で平均年齢28.7±8.4歳(16-49歳)、未婚女性262名、平均年齢26.4±7.4歳(16-49歳)であり男女間に有意差(p<0.001)を認めた。初婚者は男性319名、女性474名で、その平均年齢は男性38.8±6.5歳(21-49歳)、女性38.8±6.6歳(22-49歳)と両者間では同等であった。再婚者は男性20名で37.9±6.6歳(27.48歳)、女性も20名であるも41.5±5.3歳(30-49歳)と後者に有意(p<0.05)に年齢が高値であった。離婚者は男性25名、39.1±6.6歳(26-49歳)、女性45名と女性に多く、平均年齢は38.3±6.5歳(24-49歳)とほぼ同等であった。死別者は男性3名46.0±2.0歳(44-48歳)、女性5名42.4±6.5歳(35-49歳)と両者間に有意差は認めなかった。

婚姻関係の構成比についてみると、男性では未婚42.0%、初婚49.3%、再婚3.1%、離婚3.9%、死別0.5%で無回答が1.2%であった。女性は未婚31.9%、初婚57.7%、再婚2.4%、離婚5.5%、死別0.6%で無回答が1.8%であり、女性は男性に比べ未婚者が少なく既婚者が多く、それぞれに有意差(p<0.001, p<0.01)を認めた。

これを世代別にみると、男性は25-34歳で未婚49.5%に対し女性39.5%と有意差は認めないものの低値であった。初婚については男性42.8%に対し女性は未婚53.4%であり有意差(p<0.05)を認めた。また、再婚者は男性4.1%、女性0.4%であり有意差(p<0.05)を認めた。離婚者は男性2.6%に対し女性6.3%と有意差はないものの高値を示していた。さらに、45歳以上の女性の離婚者は8.5%、男性2.2%であり有意差は認めないものの高値であった。

表4. 世代別婚姻関係の構成

	世代	未婚	初婚	再婚	離婚	死別	無回答	総計
男性	25歳未満	104(90.3)	3(2.8)				1(0.9)	108
	25-34歳	96(49.5)	83(42.8)	8(4.1)	5(2.6)		2(1.0)	194
	35-44歳	58(22.9)	163(64.4)	9(3.6)	18(7.1)	1(0.4)	4(1.6)	253
	45歳以上	14(15.2)	70(76.1)	3(3.3)	12(2.2)	2(2.2)	1(1.1)	92
男性計		272(42.0)	319(49.3)	20(3.1)	25(3.9)	3(0.5)	8(1.2)	647
女性	25歳未満	127(92.7)	5(3.6)		1(0.7)		4(2.9)	137
	25-34歳	95(39.5)	127(53.4)	1(0.4)	15(6.3)			238
	35-44歳	36(11.8)	229(75.1)	11(3.6)	17(5.6)	3(1.0)	9(3.0)	305
	45歳以上	4(2.8)	113(80.1)	8(5.7)	12(8.5)	2(1.4)	2(1.4)	141
女性計		262(31.9)	474(57.7)	20(2.4)	45(5.5)	5(0.6)	15(1.8)	821
総計		534(36.4)	793(54.0)	40(2.7)	70(4.8)	8(0.5)	23(1.6)	1,468

職業と姻戚関係の構成についてみると、男性は未婚者で54.4%が常勤職と半数を占めており、次いで学生が19.9%と続き、非常勤9.2%、自営業5.5%であったが、無職が22名(8.1%)と多く、29名の無職者のうち未婚が75.9%を占めていた。また、女性では同様に

未婚者は常勤職が 48.1%、学生が 26.3%と男性より学生がやや高値であった。未婚女性の無職者は 15 名(5.7%)と男性に比べ少ないものの女性 22 名の無職者で初婚の 1 名と無回答の 1 名を除くと無職者の 75%を未婚で占めていた。婚姻すると男性は初婚、再婚、離婚、死別であっても常勤職、自営業、非常勤となり、無職は 7 名であった。女性は専業主婦となるのが初婚で 34.0%、再婚 30.0%であるが、離婚者は常勤職に就くものが 53.3%と多く、再婚者も常勤職が多かった。しかし初婚の場合は、常勤よりも非常勤職に就くものが多くなっていた。再婚者では無職はなく離婚や死別状態での無職は 5 名であり、うち 1 名は 24 歳の長子がいる女性であった。初婚で 1 名無職とあったが、これは 34 歳の女性で 2 歳になる子どもでおり「主婦」との判定違いではなかったかと考える。

表 5. 男性の婚姻形態と職業

性別婚姻関係	常勤職	非常勤	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計	
男性	未婚	148(54.4)	25(9.2)	15(5.5)	54(19.9)		22(8.1)	8(2.9)	272
	初婚	271(85.0)	4(1.3)	37(11.6)		4(1.3)	3(0.9)	319	
	再婚	13(65.0)	1(5.0)	5(25.0)		1(5.0)		20	
	離婚	19(76.0)		3(12.0)		2(8.0)	1(4.0)	25	
	死別	2(66.7)		1(33.3)				3	
	無回答	1(12.5)					7(87.5)	8	
男性計	454(70.2)	30(4.6)	61(9.4)	54(8.3)		29(4.5)	19(2.9)	647	
女性	未婚	126(48.1)	41(15.6)	3(1.1)	69(26.3)	2(0.8)	15(5.7)	6(2.3)	262
	初婚	94(19.8)	169(35.7)	44(9.3)	1(0.2)	161(34.0)	1(0.2)	4(0.8)	474
	再婚	7(35.0)	4(20.0)	3(15.0)		6(30.0)			20
	離婚	24(53.3)	15(33.3)	3(6.7)			3(6.7)		45
	死別	1(20.0)	1(20.0)			1(20.0)	2(40.0)		5
	無回答	1(6.7)	4(26.7)	2(13.3)	2(13.3)	1(6.7)	1(6.7)	4(26.7)	15
女性計	253(30.8)	234(28.5)	55(6.7)	72(8.8)	171(20.8)	22(2.7)	14(1.7)	821	
総計	707(48.2)	264(18.0)	116(7.9)	126(8.6)	171(11.6)	513(3.5)	33(2.2)	1,468	

5. 子どもの数

調査対象者の子どもを保有する数について無回答を除く有効回答者でみると、男性の子ども保有は 641 名中 297 名(46.3%)、女性は 813 名中 482 名(59.3%)であり後者が高値であり有意差($p < 0.001$)を認めた。未婚者の子ども保有率は男性では皆無であるが、女性は 12 名(4.7%)にみられた。その内訳は、25 歳未満 2 名(1.6%)、25-34 歳 4 名(4.2%)、うち 2 人 1 名、3 人 1 名、35-44 歳 6 名(16.7%)、うち 2 人 4 名、3 人 2 名であった。前回調査時は 250 名中 7 名(2.8%)と有意差はないものの上昇していた。

平均子ども数は男性 2.0 ± 0.8 (1-6 人)、女性 2.0 ± 0.7 (1-4 人)であり、男女間に有意差

は認めなかった。

結婚経験者で子どもを保有しているのが、有効回答のみで見ると男性 364 名中 297 名 (81.6%)、女性 540 名中 468 名 (86.7%) と女性に高く有意差 ($p < 0.05$) を認めた。

子どもを持っている長子の年齢をみると男性は 9.8 ± 6.4 歳 (0-26 歳) であり、女性は 12.2 ± 7.0 歳 (0-30 歳) であった。男性の長子を産ませた平均年齢は 29.3 ± 4.7 歳 (18-43 歳)、女性の長子出産平均年齢は 26.9 ± 4.1 歳 (16-40 歳) であった。

表 6-1. 男性の婚姻形態と子どもの有無

子どもの数		無	1人	2人	3人	4人以上	無回答	総計
男性	未婚	264(100)						264
	初婚	47(14.8)	75(23.7)	132(41.6)	50(15.8)	8(2.5)	5(1.6)	317
	再婚	5(26.3)	4(21.1)	5(26.3)	2(10.5)	3(15.8)		19
	離婚	9(36.0)	9(36.0)	5(20.0)	2(8.0)			25
	死別	1(33.3)	1(33.3)		1(33.3)			3
	無回答						1(100)	1
男性計		344(53.2)	89(13.8)	142(21.9)	55(8.5)	11(1.7)	6(0.9)	647

表 6-2. 女性の婚姻形態と子どもの有無

子どもの数		無	1人	2人	3人	4人以上	無回答	総計
女性	未婚	241(95.3)	4(1.6)	5(2.0)	3(1.2)			253
	初婚	51(10.9)	85(18.1)	231(49.1)	87(18.5)	8(1.7)	8(1.7)	470
	再婚	3(15.0)	4(20.0)	5(25.0)	7(35.0)	1(5.0)		20
	離婚	8(17.8)	14(31.1)	17(37.8)	4(8.9)	2(4.4)		45
	死別	2(40.0)	1(20.0)	1(20.0)	1(20.0)			5
	無回答			2(100)				2
女性計		331(40.3)	108(13.2)	261(31.8)	102(12.4)	11(1.3)	8(1.0)	821
総計		675(46.0)	197(13.4)	403(27.5)	157(10.7)	22(1.5)	14(1.0)	1,468

以上のような背景を持つ男性 647 名、女性 821 名、計 1,468 名から得られた情報より、わが国の現状と実態を表しているものと考え「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」について検討を加えるのに問題はないと考え以下に報告する。

調査対象の背景の小括

1. 男女間の年齢分布

対象となった男性は 647 名で、その平均年齢は 34.5±8.9 歳(16-49 歳)、女性 821 名 34.8±9.0 歳(16-49 歳)であり、構成は男性 44.1%に対し女性 55.9%であった。男女間に有意差は認めなかった。

性行動の意識と実態を検討するにあたり 25 歳未満(性成熟期前半)群、25-34 歳(性成熟期)群、35-44 歳(性成熟期後半)群、45 歳以上(更年期)群の 4 群で比較解析することとした。

尚、4 群の分布は 25 歳未満群男性 16.7%、女性 19.0%、25-34 歳群 30.0%、30.1%、35-44 歳群 39.1%、32.9%、45 歳以上群 14.2%、17.2%であり、25 歳未満と 45 歳以上が少ないため、世代比較として検討を要するときには 35 歳未満と 35 歳以上との 2 群に分けて行った。

2. 兄弟姉妹関係

調査対象者の兄弟姉妹関係については、いないという 1 人っ子は男性で 52 名(8.0%)、女性 74 名(9.0%)と男女共に 10%を下回っていた。平均兄弟姉妹数は男性で 1.6 人、女性 1.6 人と男女間において有意差を認めなかったが、前回の第 3 回調査に比べ男女共に少なくなっていた。

3. 職業

男性では常勤職についているものが 70.2%、自営業と学生が共に 10%弱であり、非常勤職は 4.6%であった。これを世代別で見ると 25 歳未満では学生が 48.1%、常勤職 24.1%、非常勤職 15.7%と続いていた。25 歳以上になると常勤職が 80%前後を占めており、自営業が 7-15%と高年齢に高くなっていた。無職と回答しているものが 25 歳以上で 4-6%であり、35-44 歳が 6%と高値を示していた。また、常勤職で週 43 時間以上就労しているものが 76.7%であり、自営業でも 43 時間就労が 70.5%と高く、非常勤職では 23.3%と低く、わが国の社会的経済不況の影響が窺われた。

女性は常勤職 30.8%、非常勤職 28.5%、専業主婦が 20.8%であり、学生は 8.8%であった。世代別で見ると 25 歳未満は学生が 51.5%、常勤職 25.5%、非常勤職 13.9%と男性と同様のパターンをとっていたが、25-34 歳群では常勤職が 38.7%、主婦と非常勤職が 25.6%となり、35-44 歳群では非常勤職が 35.1%、主婦 27.2%、常勤職 26.5%と変化し、45 歳以上になると非常勤職 33.3%、常勤職 31.2%、主婦 16.3%となり、専業主婦では遣り繰りのつかない社会環境が窺われ、しかも 43 時間以上の就労者は常勤職で 50.2%であり、自営業は 30.2%、非常勤職はわずか 5.7%という点からも就労状況の厳しさが窺われた。

男女の就労状況から、現在のわが国における社会労働環境に一致するように思われた。

4. 婚姻関係

未婚、初婚、再婚、離婚、死別と5区分でみているが、未婚は男性42%、女性32%、初婚の男性49%、女性58%、再婚の男性3%、女性2%、離婚の男性4%、女性6%、死別の男性0.5%、女性0.6%であった。

これを職業別についてみると、初婚男性の常勤者は85%を占め、初婚女性は非常勤職36%、主婦が34%、常勤職20%であり、非常勤職という選択が男女間における職種の違いが示されていた。

5. 子どもの数

調査対象者の子どもの保有人数をみると男女ともに平均2人であり、子どもの保有率は男性で46%、女性59%と後者に高く有意差を認めていた。未婚者における子ども保有者は男性では皆無であったが、未婚女性では12名5%にみられた。前回の2.8%に比べシングルマザーが増えていた。

結婚経験者での子どもの保有率は、男性で82%、女性87%であり後者に高く有意差を認めていた。

長子を産ませた男性の平均年齢は29.3歳であり、女性の平均初産年齢は26.9歳であり16歳から40歳と幅が大きかった。

第4回男女の生活と意識に関する調査で、特に、性行動と避妊に関する意識の実態について、以上のような背景から日本の社会における実態に沿った妥当なものとして集計解析し検討を進めることとした。

以下未既婚で検討を加えるにあたり、未婚者、離婚者、死別者を未婚群とし、既婚は初婚者と再婚者を既婚群として検討を加えていくこととした。

II章. 異性に対する意識について

1. 異性との交際経験

調査対象者に異性との交際経験の有無を問いかけている。男性は647名中「経験がある」ものが541名(83.6%)、「ない」が95名(14.7%)、「無回答」11名(1.7%)であった。未婚男性は300名中「ある」198名(66.0%)、「ない」94名(31.3%)であった。これを世代別でみると、25歳未満では「ある」が59.6%、「ない」35.6%であり、25-34歳「ある」70.3%、35-44歳「ある」71.4%と高値となり、45歳以上では55.6%と低くなっていたが、世代間に有意差は認めなかった。一方、既婚男性は全員の339名が当然のことながら「ある」であった。

交際経験をしたときの開始年齢についてみると、開始年齢を答えていたのが507名(78.4%)で、その年齢は7歳から38歳、平均開始年齢は 17.3 ± 4.1 歳であった。未婚男性は192名(64.0%)で平均 16.6 ± 3.7 (9~36)歳、既婚男性312名(92.0%)平均 17.7 ± 4.3 (7~38)歳であり、既婚者がやや開始年齢が遅く、未既婚間に有意差($p < 0.001$)を認めた。

表1. 男性の異性との交際経験の有無

	世代	ある	ない	無回答	総計
未婚者	16-24歳	62(59.6)	37(35.6)	5(4.8)	104
	25-34歳	71(70.3)	30(29.7)		101
	35-44歳	55(71.4)	20(26.0)	2(2.6)	77
	45歳以上	10(55.6)	7(38.9)	1(5.6)	18
男性計		198(66.0)	94(31.3)	8(2.7)	300
既婚者	16-24歳	3(100)			3
	25-34歳	91(100)			91
	35-44歳	172(100)			172
	45歳以上	73(100)			73
男性計		339(100)			339
未既婚不明集計		4(50.0)	1(12.5)	3(37.5)	8
男性総計		541(83.6)	95(14.7)	11(1.7)	647

女性は821名中「ある」ものが746名(90.9%)、「ない」が70名(8.5%)、「無回答」5名(0.6%)であった。未婚女性は312名中「ある」241名(77.2%)、「ない」68名(21.8%)であった。未婚女性は未婚男性に比べ交際経験ありが多く有意差($p < 0.01$)を認めた。これを世代別でみると、25歳未満では「ある」が64.8%、「ない」35.2%であり、25-34歳「あ

る」84.5%、35-44歳「ある」85.7%、45歳以上では94.4%と高値となっており、25歳未満群とそれ以上の世代間にそれぞれに有意差($p<0.001$, $p<0.01$, $p<0.05$)を認めた。25歳以上間では有意差は認めなかった。男性同様に、既婚者494名が当然のことながら「ある」であった。

交際経験をしたときの開始年齢についてみると、開始年齢を答えていたのが684名(83.3%)で、その年齢は11歳から38歳、平均開始年齢は 17.6 ± 3.3 歳であった。未婚女性は233名(74.7%)で平均 16.9 ± 3.1 (11~32)歳、既婚444名(89.9%)平均 17.9 ± 3.3 (12~38)歳であり、既婚者がやや開始年齢が遅く、未既婚間に有意差($p<0.001$)を認めた。この有意差は、未婚男性と未婚女性との間と既婚男性と女性の間にも有意差を認めなかったことから、単に、未婚と既婚者の母集団の平均年齢の違いによるものと考えられた。

表1-2. 女性の異性との交際経験の有無

	世代	ある	ない	無回答	総計
未婚者	16-24歳	83(64.8)	45(35.2)		128
	25-34歳	93(84.5)	16(14.5)	1(0.9)	110
	35-44歳	48(85.7)	7(12.5)	1(1.8)	56
	45歳以上	17(94.4)		1(5.6)	18
女性計		241(77.2)	68(21.8)	3(1.0)	312
既婚者	16-24歳	5(100)			5
	25-34歳	128(100)			128
	35-44歳	240(100)			240
	45歳以上	121(100)			121
女性計		494(100)			494
未既婚不明者		11(73.3)	2(13.3)	2(13.3)	15
女性総計		746(90.9)	70(8.5)	5(0.6)	821

次に、初めての交際関係が現在も続いているのか終わったかについて問いかけているが、これによると現在も続いているが男性で70名(10.8%)、うち未婚者14名(4.7%)、既婚者56名(16.5%)、女性は124名(13.3%)、未婚13名(4.7%)、既婚109名(22.1%)となっていた。既婚者に男女とも高値を示していたが、結婚による継続性をあげていたためと考える。

最初の異性との交際の終わりを答えている年齢からみると、その交際期間を読み取ることができ、1年以内を交際期間最低3ヶ月と仮定するならば、男性175名の平均交際期間は

1.4±2.3 (0.25~24) 年となり、女性 216 名の平均交際期間は 1.7±2.7 (0.25~20) 年と男女間に有意な違いは認められなかった。

2. 中学生が性交渉をすることに対する考え

中学生が性交渉をすることに対する考えとして、男性は「妊娠や性感染症に対し自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが 360 名 (55.6%)、「中学生であっても個人の自由である」128 名 (19.8%)、「しない方が良い」98 名 (15.1%)、「時代の流れで仕方がない」49 名 (7.6%)、「無回答」12 名 (1.9%) であった。これを未既婚別にみると「自分で責任の取れる年齢や立場になってから」については未婚男性 47.0% に対し既婚 62.8% と後者が高値で、「個人の自由である」が未婚 30.7%、既婚 10.3% と後者が逆に低値となり、両者間に有意差 ($p < 0.001$) を認めた。この考えは、未既婚を問わず「自分で責任の取れる」という考えは世代が高くなるにつれて高値となっていた。

表 2-1. 男性の考える「中学生の性交渉」について

	世代	自分で責任を取れるようになってから	しない方が良い	時代の流れで仕方がない	個人の自由である	無回答	総計
未婚者	16-24 歳	38(36.5)	8(7.7)	11(10.6)	45(43.3)	2(1.9)	104
	25-34 歳	48(47.5)	9(8.9)	12(11.9)	31(30.7)	1(1.0)	101
	35-44 歳	43(55.8)	16(20.8)	3(3.9)	15(19.5)		77
	45 歳以上	12(66.7)	1(5.6)	2(11.1)	1(5.6)	2(11.1)	18
男性計		141(47.0)	34(11.3)	28(9.3)	92(30.7)	5(1.7)	300
既婚者	16-24 歳	1(33.3)			2(66.7)		3
	25-34 歳	47(51.6)	19(20.9)	8(8.8)	17(18.7)		91
	35-44 歳	109(63.4)	36(20.9)	9(5.2)	12(7.0)	6(3.5)	172
	45 歳以上	56(76.3)	9(12.3)	4(5.5)	4(5.5)		73
男性計		213(62.8)	64(18.9)	21(6.2)	35(10.3)	6(1.8)	339
未既婚不明集計		6(75.0)			1(12.5)	1(12.5)	8
男性総計		360(55.6)	98(15.1)	49(7.6)	128(19.8)	12(1.9)	647

女性は「妊娠や性感染症に対し自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが 557 名 (67.8%) であり、男性の 55.6% に比べ有意 ($p < 0.001$) に高値であった。次に、「しない方が良い」124 名 (15.1%)、「中学生であっても個人の自由である」95 名 (11.6%)、「時代の流れで仕方がない」30 名 (3.7%)、「無回答」15 名 (1.8%) であった。これを未既婚別にみると「自分で責任の取れる年齢や立場になってから」については未婚女性 59.3% に対し既婚 73.9% と後者が高値で、「個人の自由である」が未婚 20.2%、既婚

6.3%と後者が逆に低値となり、両者間に有意差(p<0.001)を認めた。この考えは、男性同様未婚を問わず「自分で責任の取れる」という考えは世代が高くなるにつれて高値となっていた。

表 2-2. 女性の考える「中学生の性交渉」について

	世代	自分で責任を取れるようになってから	しない方が 良い	時代の流 れで仕方 がない	個人の自 由である	無回答	総計
未婚者	16-24 歳	70 (54.7)	17(13.3)	7(5.5)	33(25.8)	1(0.8)	128
	25-34 歳	66(60.0)	13(11.8)	6(5.5)	24(21.8)	1(0.9)	110
	35-44 歳	36(64.3)	11(19.6)	3(5.4)	6(10.7)		56
	45 歳以上	13(72.2)	5(27.8)				18
女性計		185(59.3)	46(14.7)	16(5.1)	63(20.2)	2(0.6)	312
既婚者	16-24 歳	3(60.0)	1(20.0)	1(20.0)			5
	25-34 歳	83(64.8)	22(17.2)	5(3.9)	17(13.3)	1(0.8)	128
	35-44 歳	183(76.3)	31(12.9)	7(2.9)	12(5.0)	7(2.9)	240
	45 歳以上	96(79.3)	20(16.5)		2(1.7)	3(2.5)	121
女性計		365(73.9)	74(15.0)	13(2.6)	31(6.3)	11(2.2)	494
未既婚不明計		7(46.7)	4(26.7)	1(6.7)	1(6.7)	2(13.3)	15
女性総計		557(67.8)	124(15.1)	30(3.7)	95(11.6)	15(1.8)	821

3. セックス（性交渉）に対する関心度について

セックス（性交渉）をすることに対する関心度について質問しているが、男性は「とても関心がある」が179名（27.7%）、「ある程度関心がある」383名（59.2%）、「あまり関心がない」59名（9.1%）、「全く関心がない」7名（1.1%）、「嫌悪している」1名（0.2%）であった。未既婚別でも殆ど同じ構成比を示しているが、世代別では25-34歳代に「とても関心がある」が未婚で33.7%、既婚37.4%と関心度が高まっていた。

女性は「とても関心がある」が47名（5.7%）、「ある程度関心がある」433名（52.7%）、「あまり関心がない」274名（33.4%）、「全く関心がない」18名（2.2%）、「嫌悪している」12名（1.5%）であった。未既婚別で見ると「とても関心がある」の未婚者が9.6%に対し既婚者3.4%であり両者間に有意差(p<0.001)を認めた。また、「あまり関心がない」未婚27.9%、既婚36.6%であり両者間に有意差(p<0.05)を認めた。世代別では高齢者になるにつれ関心度が低下していた。

いずれにしてもセックスをすることに対する関心度は女性に比べ男性のほうが有意

($p < 0.001$)に上回っており、性に対する根本的な意識の違いが窺われた。

表 3-1. 男性のセックスに対する関心度

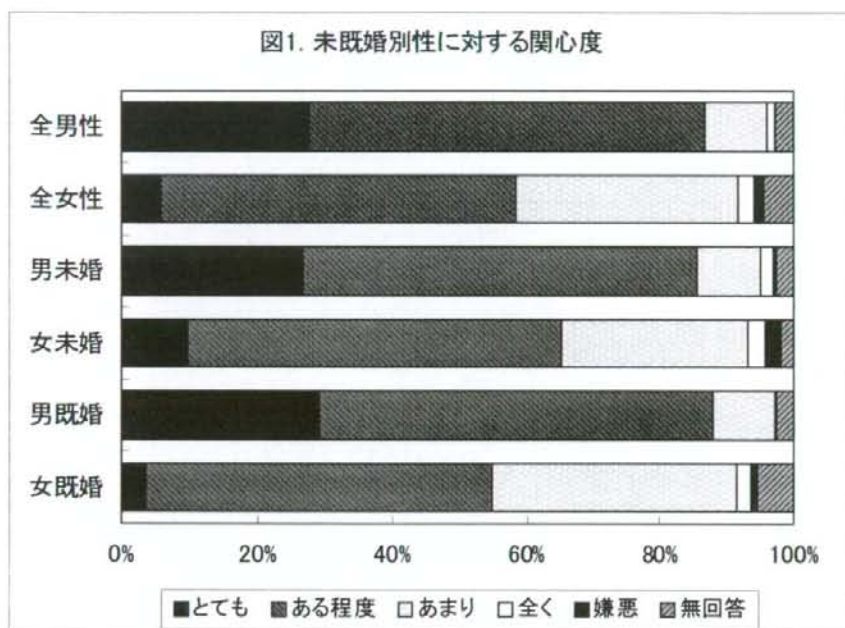
	世代	とても関心がある	ある程度ある	あまり関心がない	全く関心がない	嫌悪している	無回答	総計
未婚者	16-24 歳	20(19.2)	66(63.5)	11(10.6)	4(3.8)		3(2.9)	104
	25-34 歳	34(33.7)	57(56.4)	7(6.9)		1(1.0)	2(2.0)	101
	35-44 歳	23(29.9)	43(55.8)	8(10.4)	2(2.6)		1(1.3)	77
	45 歳以上	3(16.7)	11(61.1)	2(11.1)			2(11.1)	18
男性計		80(26.7)	177(59.0)	28(9.3)	6(2.0)	1(0.3)	8(2.7)	300
既婚者	16-24 歳	2(66.7)	1(33.3)					3
	25-34 歳	34(37.4)	49(53.8)	8(8.8)				91
	35-44 歳	44(25.6)	101(58.7)	17(9.9)	1(0.6)		9(5.2)	172
	45 歳以上	19(26.0)	48(65.8)	6(8.2)				73
男性計		99(29.2)	199(58.7)	31(9.1)	1(0.3)		9(2.7)	300
未婚不明男性			7(87.5)				1(12.5)	8
男性総計		179(27.7)	383(59.2)	59(9.1)	7(1.1)	1(0.2)	18(2.8)	647

表 3-2. 女性のセックスに対する関心度

	世代	とても関心がある	ある程度ある	あまり関心がない	全く関心がない	嫌悪している	無回答	総計
未婚	16-24 歳	12(9.4)	72(56.3)	33(25.8)	6(4.7)	3(2.3)	2(1.6)	128
	25-34 歳	13(11.8)	65(59.1)	27(24.5)		2(1.8)	3(2.7)	110
	35-44 歳	5(8.9)	26(46.4)	20(35.7)	2(3.6)	2(3.6)	1(1.8)	56
	45 歳以上		11(61.1)	7(38.9)				18
未婚女性計		30(9.6)	174(55.8)	87(27.9)	8(2.6)	7(2.2)	6(1.9)	312
既婚	16-24 歳		5(100.0)					5
	25-34 歳	12(9.4)	76(59.4)	36(28.1)	1(0.8)	1(0.8)	2(1.6)	128
	35-44 歳	4(1.7)	115(47.9)	92(38.3)	7(2.9)	3(1.3)	19(7.9)	240
	45 歳以上	1(0.8)	58(47.9)	53(43.8)	2(1.7)	1(0.8)	6(5.0)	121

既婚女性計	17(3.4)	254(51.4)	181(36.6)	10(2.0)	5(1.0)	27(5.5)	494
未既婚不明女性		5(33.3)	6(40.0)			4(26.7)	15
女性総数	47(5.7)	433(52.7)	274(33.4)	18(2.2)	12(1.5)	37(4.5)	821

男性と女性のセックスに対する関心度を未既婚別に図にすると、図1のごとくとなり、明らかに男女差の違いを読み取ることができる。



4. 異性との関わりについて

異性とのかかわりについて面倒だと感じるかという質問をしているが、男性は「とても面倒である」25名(3.9%)、「少し面倒である」192名(29.7%)、「あまり面倒でない」229名(35.4%)、「全く面倒でない」184名(28.4%)、「嫌悪している」2名(0.3%)であり、未既婚別では、「全く面倒でない」が未婚男性24.0%に対し既婚男性32.4%と後者が有意($p < 0.05$)に高値を示していた。逆に、「少し面倒」が未婚34.3%、既婚26.0%と後者が有意($p < 0.05$)に低値を示していた。世代別でみると年齢が高くなるにつれ面倒と感ずるものが上昇していた。

女性は「とても面倒である」31名(3.8%)、「少し面倒である」349名(42.5%)、「あまり面倒でない」278名(33.9%)、「全く面倒でない」121名(14.7%)、「嫌悪している」5名(0.6%)であり、未既婚別では、「全く面倒でない」が未婚女性18.3%に対し既婚女性12.8%と後者が有意($p < 0.05$)に低値を示していた。世代別でみると年齢が高くなるにつれ面倒と

感じるものが上昇していた。

男女別でみると面倒と感じているのが、男性は219名(33.8%)に対し女性385名(46.3%)であり、両者間に有意差(p<0.001)を認めた。特に、既婚者において男性が面倒と感じているのは100名(29.5%)に対し女性が228名(46.2%)となり、既婚男性の面倒でないと考えるものがより高くなり、男女間の乖離が大きくなっていることが示されていた。

表4-1. 男性の異性とのかかわりについて

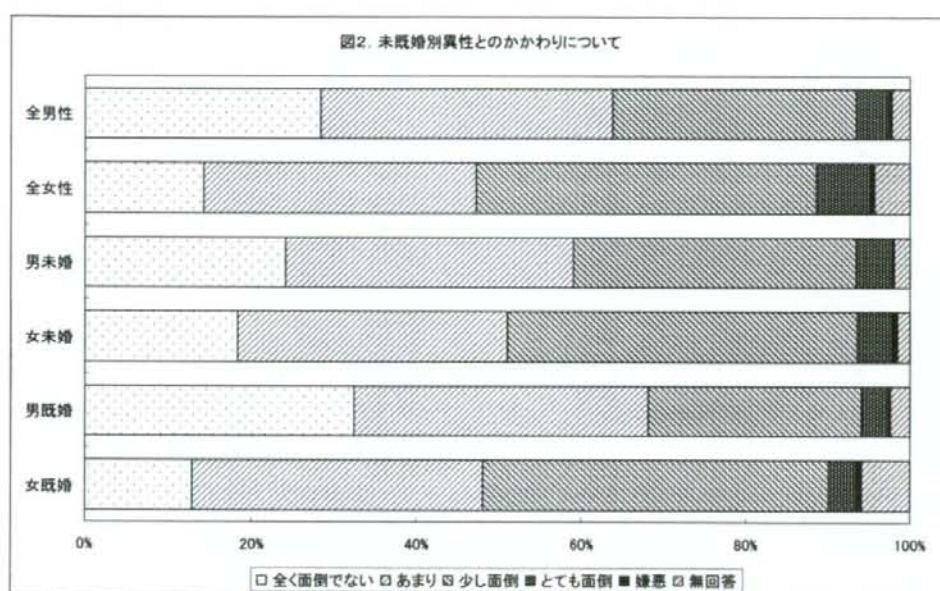
	世代	とても面倒	少し面倒	あまり面倒でない	全く面倒でない	嫌悪している	無回答	総計
未婚	16-24歳	6(5.8)	28(26.9)	40(38.5)	26(25.0)	1(1.0)	3(2.9)	104
	25-34歳	2(2.0)	42(41.6)	31(30.7)	26(25.7)			101
	35-44歳	5(6.5)	27(35.1)	28(36.4)	16(20.8)		1(1.3)	77
	45歳以上		6(33.3)	6(33.3)	4(22.2)		2(11.1)	18
未婚男性計		13(4.3)	103(34.3)	105(35.0)	72(24.0)	1(0.3)	6(2.0)	300
既婚	16-24歳		2(66.7)		1(33.3)			3
	25-34歳	3(3.3)	20(22.0)	31(34.1)	36(39.6)	1(1.1)		91
	35-44歳	6(3.5)	47(27.3)	56(32.6)	55(32.0)		8(4.7)	172
	45歳以上	2(2.7)	19(26.0)	34(46.6)	18(24.7)			73
既婚男性計		11(3.2)	88(26.0)	121(35.7)	110(32.4)	1(0.3)	8(2.4)	339
未既婚不明男性		1(12.5)	1(12.5)	3(37.5)	2(25.0)		1(12.5)	8
男性総計		25(3.9)	192(29.7)	229(35.4)	184(28.4)	2(0.3)	15(2.3)	647

表4-2. 女性の異性とのかかわりについて

	世代	とても面倒	少し面倒	あまり面倒でない	全く面倒でない	嫌悪している	無回答	総計
未婚	16-24歳	4(3.1)	48(37.5)	45(35.2)	28(21.9)	1(0.8)	2(1.6)	128
	25-34歳	2(1.8)	51(46.4)	36(32.7)	19(17.3)		2(1.8)	110
	35-44歳	6(10.7)	22(39.3)	21(37.5)	5(8.9)	1(1.8)	1(1.8)	56
	45歳以上	1(5.6)	12(66.7)		5(27.8)			18
未婚女性計		13(4.2)	133(42.6)	102(32.7)	57(18.3)	2(0.6)	5(1.6)	312
既婚	16-24歳		1(20.0)	2(40.0)	2(40.0)			5
	25-34歳	2(1.6)	37(28.9)	60(46.9)	26(20.3)		3(2.3)	128
	35-44歳	10(4.2)	113(47.1)	73(30.4)	22(9.2)	2(0.89)	20(8.3)	240
	45歳以上	5(4.1)	57(47.1)	39(32.2)	13(10.7)	1(0.8)	6(5.0)	121

既婚女性計	17(4.2)	208(42.1)	174(35.2)	63(12.8)	3(0.6)	29(1.6)	494
未既婚不明女性	1(6.7)	8(53.3)	2(13.3)	1(6.7)		3(20.0)	15
女性総計	31(3.8)	349(42.5)	278(33.9)	121(14.7)	5(0.6)	37(4.5)	821

これら異性とのかかわりの面倒度の数値を左側から「全く面倒でない」「あまり面倒でない」「少し面倒」「全く面倒」「嫌悪している」の順に並べたのを図2. に示した。全男性と女性の違いは図でも認められるが、その乖離度は未婚者群においては小さく、既婚者において大きいことが明らかであった。



5. コンドームの使用促進について（性感染症に対する意識）

コンドームに対する認識を「性感染症予防のためにも重要であるが、どのようにすれば利用が増えるか？」という問いに対しての考えを聞いている。それに対して男性は「コンドームの有効性を周知する」という考えが 221 名(34.2%)と最も高く、女性も同様に 332 名(40.4%)であり、次が男性で「いろいろな場所で入手できる」が 195 名(30.1%)とあげており、女性 194 名(23.6%)と女性の方が有意($p < 0.01$)に低かった。3番目に、男性は「使いやすい商品を開発する」91 名(14.1%)、女性 122 名(14.9%)であった。

世代別においても「コンドームの有効性を周知する」は世代が高くなるにつれ上昇しており、逆に「安くする」は若い世代で高値を示していた。また、未既婚別についてみると、既婚者の女性が、既婚男性に比べ「コンドームの有効性を周知する」が有意($p < 0.05$)に高

く、未婚女性に対しても有意差($p < 0.05$)を認めた。「値段を安くする」については、女性において未婚者が既婚者に比べ有意($p < 0.05$)に高値を示していた。

コンドームの使用については、男女間、年代間において若干のプライオリティの違いはあるものの「STD やエイズ予防の有効性」を認知させ、「手軽に入手」でき「使いやすく」「価格を安く」という考えが周知されているようであった。